

当院で頭頸部がんに対し重粒子線治療をお受けになった皆様へ (研究課題名「粒子線治療に用いるマウスピース材料の飛程誤差への影響評価」 に関する情報)

当院では頭頸部がん患者に対して、治療精度向上や副作用低減を目的としてマウスピースを作成し、重粒子線治療を行ってまいりました。しかし、マウスピースの材料自体が、どの程度の阻止能比（マウスピース材料によってどれくらい重粒子線が止まるか）であり、重粒子線の飛程（重粒子がマウスピース材料の中をどのくらいの距離を進むか）にどのような影響を与えるのかが不明でした。

そこで、まず初めに当院で用いているマウスピース材料の阻止能比や飛程誤差を調べる基礎研究を事前に行いました。その結果、当院で使用しているマウスピース材料は、粒子線治療に適した材料であることが分かりました。しかし、当院で行っている実際の臨床症例では、どの程度の線量分布上の誤差が出るかは不明であり、治療計画データを用いて基礎研究で得られたマウスピース材の阻止能比を考慮したシミュレーションを行うことが求められました。

そこで、本研究ではマウスピースによる飛程誤差が与える線量分布の影響を評価するため、これまで当院で行われてきた実際の患者さんのデータを用いて、従来の方法で行われた治療計画で得られた線量分布と、基礎研究で得られたマウスピース材の阻止能比を用いて再計算した線量分布を作成し、それぞれを比較します。

本研究にご自分のデータを使用してほしくない方（又はご家族もしくは代理の方）は、利用を停止しますので2021年3月31日までに下記[問い合わせ先：窓口]へお申し出ください。データ利用をお断りになっても、不利益を受けることはありません。なお、上記期間を過ぎても問い合わせをお受けしますが、既に論文等で発表されている場合には取り除くことができません。その場合も患者様の個人情報公表されることは一切ありません。

[研究課題名] 粒子線治療に用いるマウスピース材料の飛程誤差への影響評価

[研究機関] 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子医学・医療部門 QST病院

[研究責任者] 伊川 裕明

[研究の目的] 本研究では、マウスピース材が与える重粒子線の飛程誤差（治療の正確さ）を評価します。

●対象となる方々

下記1)～3)に該当する方のうち、最も適していると思われるお一人のデータを研究責任者が選択します。

- 1) 頭頸部がんに対して先進医療が開始された1997年4月から2020年3月までにQST病院で重粒子線治療を行った方
- 2) 現在QST病院で用いられているマウスピース材を使用して治療が行われた方
- 3) 重粒子線のビームがより長くマウスピースを通過する治療計画になっていた方

●利用する情報

実際に患者様が治療を受けた重粒子線治療の詳細なデータ（治療計画に用いたCT画像、マウスピースの大きさ、重粒子線の照射範囲や線量などの治療計画データ等）を利用致します。

[問い合わせ先：窓口]

千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子医学・医療部門 QST病院

担当：伊川裕明

電話：043-206-3306（平日9:00～17:00）